

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381286

研究課題名(和文)「総合学科『産業社会と人間』の職業・キャリア教育の効果とモデル構築」

研究課題名(英文) Research on the effect and Model of the career education and the vocational education in "industrial society and human beings"

研究代表者

太田 政男 (OTA, Masao)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：70102192

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、総合学科高校の特色ある科目である「産業社会と人間」に焦点をあて、その実践事例の分析と教育的効果の検証を行うものである。この研究目的を明らかにするため、A県にある総合学科高校に継続的な調査を行った。これらことから、「産業社会と人間」以外にも「課題研究」等の総合学科の教育課程や学校側の履修指導・学習指導などが自らの将来を考えるオリエンテーション機能を果たし、実際には他の分野や領域にも通用する基礎的・汎用的能力の獲得へ繋がっているということが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study focused on "Industrial Society and Human beings" of in Comprehensive Courses and analyzed educational effect in "Industrial Society and Human beings" In order to clarify the purpose of this research, we conducted a survey on Comprehensive Courses. I conducted several surveys with my cooperativeresearchers. As a result of questionnaire surveys for students and interviews with teachers, I could find out the following point. To put it briefly, the comprehensive course curriculum of high school prepares not only the vocational guidance but also the career awareness and competences for students. This is a characteristic of the comprehensive course curriculum which is different from both academic and vocational course.

研究分野：教育学

キーワード：産業社会と人間 総合学科 キャリア教育 職業教育 専門教育

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、2011-2013年度採択の基盤研究(B)「高校「総合学科」におけるキャリア教育・職業教育の総合的・実証的研究」で明らかとなった研究成果がベースとなっている。2011～2012年にかけて全国334校の「総合学科」高校に対して、学校要覧及び教育課程、「産業社会と人間」の教育内容、「課題研究一覧」などの送付依頼を行った。約半数の学校から返信があり、各学校の設置系列と選択科目との関係性などの分析や「産業社会と人間」のカリキュラム分析を行った。

本研究のテーマである「産業社会と人間」については、年間計画の内容分析と教員への聞き取り調査から「産業社会と人間」が持っている教育的可能性とその現実的課題が明らかになった。また、「産業社会と人間」の年間指導計画の内容分析では、多彩にわたって実施されているものの、実際の授業運営は担任中心で行われ、指導の系統性や内容の専門性などについて、多くの課題があることが明らかとなった。

そのような背景から総合学科高校の特色ある科目である「産業社会と人間」に焦点をあてることにした。

## 2. 研究の目的

本研究は、総合学科高校の特色ある科目である「産業社会と人間」に焦点をあて、その実践事例の分析と教育的効果の検証を行い、高校キャリア教育の現状と課題及びその到達点を明らかにするものである。また、高校教育段階でのキャリア・職業教育の意義づけのみならず、「学校から社会への移行」の在り方を踏まえつつ、検証することも目的としている。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究手法

A県の総合学科高校に継続的な調査を行い、校長・管理職への聞き取りと「産業社会と人間」の年間シラバスなどの資料をもとに授業内容の分析などを行ってきた。これまで明らかにならなかった、その運用上の問題と課題そして、その教育的意義と効果を探ることが可能となった。

また、「全校生徒アンケート調査」を実施し、「産業社会と人間」の受講前と受講後の生徒意識の違いや高校3年生まで調査対象を広げ、3年間を通じて生徒自身の進路意識形成に「産業社会と人間」の学びがどのようにして、生徒に影響を及ぼすのか、長期的な意識調査を行うことが出来た。併せて生徒への聞き取り調査も実施し、よりリアリティある生徒の声を汲み取ることが出来た。

## (2) 調査対象校

調査対象校のA県B高校は総合学科のみを設置する全日制共学校である。各学年の学級数は6クラスであり、人文社会系列、自然科学系列、芸術・スポーツ系列、生活福祉系列、国際文化系列、環境科学系列、食品科学系列、情報ビジネス系列の8系列を設置している。

B高校は地方中核都市から電車利用20分程度の近郊に位置する。生徒の卒業後の進路は大学進学3割、短期大学進学2割、専門学校進学3割、就職1割、進学準備その他1割である。調査対象生徒は2015年4月時点における3年次生で男子92名(38%)、女子148名(62%)の合計240名である。生徒数は転学・退学等により変化して、2016年3月の卒業生数は236名である。

調査は2014年から2016年にかけての複数回の学校訪問により、学校長、担当教員、生徒と直接面接し、聞き取りを行った。

## 4. 研究成果

### (1) 総合学科の現状

高校制度において、普通科、専門学科と並ぶ新たな学科として総合学科が創設されたのは、1993年のことであり、以来、20年以上が経過している。総合学科を設置する学校数は、初年度の1994年には7校であったが、2016年現在では371校にまで大幅に増加している。総合学科に在籍する生徒数が、高校生全体に占める割合は、5.4%である。

「総合学科の今後の在り方に関する調査研究協力者会議の報告書」(2000年)を手がかりにすると(4)、総合学科の開設に際しての学科変更の状況には、普通科からの改編(23%)、専門学科からの改編(27%)、普通科と専門学科とを併設していた学校等の改編(44%)、新設(6%)となっている。こうした系列設置の組み合わせパターンを比較すると、総合学科全体では、実に多種多様な組み合わせパターンを有する高校が存在している。前記の報告書(2000年)以降の状況を調査した先行研究によれば、全国の総合学科が設置している系列のパターンは、大分類として「普通型」「やや職業型」「職業型」「その他」に分流され、さらに下位の分類を行うと、「普通型」は、「文系」「理系」「進学特進」「外国語国際」等の8パターン、「やや職業型」は、「スポーツ健康」「看護福祉保育」「情報ビジネス」等の7パターン、「職業型」は、「商業」「農業」「工業」「福祉」等の9パターン、「その他」は、「エコロジー」「美容服飾」「ライフデザイン」等の70パターン以上になる。

以上のように、総合学科の実態は、設置の際の母体校との関係でも、系列の設置を軸とする教育課程の編成においても、実に多種多

様である。今では、この制度の創設時には想定していなかった「進学重視型」の総合学科が出てきている。

## (2)「産業社会と人間」の分析について

これまでの「産業社会と人間」に関する研究は、各学校の事例研究や個別教科の視点からの研究が多数を占めている。文部科学省が平成 23 年度に「産業社会と人間」年間指導計画等の取組例を出し、16 校の指導計画とそのモデル図式が提示されているものの、その内容分析や教育的効果などは全く示されていない。そのほかには、「生徒の進路意識形成」を中心とした「産業社会と人間」の独自性に着目した研究もなされているが、「産業社会と人間」の運用上の実態やその教育的効果などを対象とした調査研究は行われていなかった。その為「産業社会と人間」の教育的意義と総合学科高校との関連性を鳥瞰し、かつ各学校の教育活動の実際や生徒の進路実態に立ち入り、「産業社会と人間」の在り方を検証求められている。

そこで、2011-2013 年度採択の基盤研究(B)「高校「総合学科」におけるキャリア教育・職業教育の総合的・実証的研究」で収集した各学校の「産業社会と人間」の年間シラバスなどの再分析を行った。

「産業社会と人間」の年間指導計画の内容分析では、多くの学校で、職業・産業関連として、「職場見学体験(インターンシップも含む)」、「職業人インタビュー」、「社会人・卒業生の講話・対話」、「出前出張講座」、「ライフプラン作成・発表」、「ボランティア体験」

進学関連では、「上級学校体験・見学」、「オープンキャンパス準備・発表」であり、その他としては、「環境教育」、「国際理解教育」、「人権教育」、「保健関連(たばこ・性・道徳・DV など)」などが行われていることが分かった。一方では、「通常授業(英語・国語・数学など)の補足」といったものが行われていることが分かった。

## (3) 生徒の科目選択履修分析

総合学科における生徒による科目選択履修の状況についての調査結果に基づいて、生徒個人単位の選択履修及び進路結果との関連について分析を行った。分析の手法としてはクラスター分析を用いて履修の特徴を分類し、「各クラスターの履修の特徴」と「課題研究の分野」及び「進路結果」の関係について検討した。

また、高1の「産業社会と人間」、高2の「キャリアプランニング」(総合的な学習の時間)、高3の「キャリアデザイン」(課題研究)の各単元、およびインターンシップ、総合学科研究発表会についての質問との相関関係も見てみた。結果は、の各単元のいくつかを除くと、他のほとんどの項

目で有意な相関関係を認めることができた。

事例として取り上げた調査対象校においては、生徒の多様な希望や興味・関心に対して、自己の進路を自覚的に見いだす進路選択が実現しており、総合学科としての機能が十分発揮されていることが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

太田政男, 佐藤史人, 阿部英之助, 原健司, 林萬太郎, 「高等学校総合学科のカリキュラムに関する事例研究」, 和歌山大学教育学部紀要, 67 集, 247 頁-256 頁, 2017 年, 査読無

児美川孝一郎, 「総合学科は生徒にいかなる意識・能力を育てているか」, 法政大学キャリアデザイン学部紀要, 14 号, 161 頁-180 頁, 2017 年, 査読無

児美川孝一郎 「地方高校生の高卒後進路行動と震災」, 生涯学習とキャリアデザイン 13 頁 : 3-12, 2016 年, 査読無

太田政男 「参加と「公」の形成 (特集 安本法制と 18 歳選挙権)」, 2015 「教育」838, 45 頁-47 頁, 2015 年, 査読無

児美川孝一郎 「若者の実態を直視し, 社会の進路も同時に拓くキャリア教育・経済教育」, 経済教育, 全 34 頁 6 頁-9 頁, 2015 年, 査読無

阿部英之助, 原健司, 林萬太郎 「「クラスター分析による高校総合学科の類型分析」, 和歌山大学教育学部紀要, 64 集, 117 頁-132 頁, 2014 年, 査読無

阿部英之助, 原健司, 林萬太郎 「高校総合学科における『職業教育度』と母体行の編成』との関係」, 和歌山大学教育学部紀要, 63 集, 87 頁-96 頁, 2014 年, 査読無

児美川孝一郎 「高大接続と大学入学者選抜のリアル」, 『現代思想』4 月号 71 頁-79 頁, 2014 年, 査読無

児美川孝一郎 「日本型就職・雇用モデルの崩壊と教育の課題」, 『D10』4 月号 ページ 4 頁-7 頁, 2014 年, 査読無

児美川孝一郎 「大学と職業の『忘れられた連関を取り戻す』」, 『現代社会と大学評価』巻 : 第 9・10 合併号 76 頁-104 頁, 2014 年, 査読無

阿部英之助, 原健司, 林萬太郎 「高校総合学科における『職業教育度』と母体行の編成』と

の関係」,和歌山大学教育学部紀要,64集,87頁-96頁,2014年,査読無

〔図書〕(計 3 件)

小池由美子編、児美川孝一郎『新しい高校教育をつくる』2014年,全256頁(87頁-102頁)  
新日本出版社

児美川孝一郎『戦後日本の教育と教育学』講座,2014,教育科学研究会編,全320頁(104頁-127頁)かもがわ出版

溝上慎一,松下佳代編,児美川孝一郎『高校・大学から仕事へのトランジッション』2014,全250頁(119頁-137頁),ナカニシヤ出版

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

太田 政男 (Masao OTA)  
大東文化大学・文学部・教授  
研究者番号:70102192

### (2)研究分担者

阿部 英之助 (Einosuke ABE)  
名古屋大学・教育学部・特任講師  
研究者番号:10408982

佐藤 史人 (Fumito SATO)  
和歌山大学・教育学部・教授  
研究者番号:80324375

児美川 孝一郎 (Koichiro KOMIKAWA)  
法政大学・キャリアデザイン学部・教授  
(50287835)

大串 隆吉 (Ryukichi OGUSHI)  
首都大学東京・都市教養学部・名誉教授  
研究者番号:70086932

### (3)研究協力者

林 萬太郎 (Mantaro HAYASHI)  
原 健司 (Kenji HARA)